

コープやまぐち奨励賞 点訳グループ スズランの会

代表者 中村 明美（福祉分野／山陽小野田市）

活動の動機・目的

視覚障がい者の方々に、情報提供し、また、人的交流をはかることで、障がいのある方も地域で生き生きと生活できることを目的とする。

活動内容

- ①市広報の点訳。併せて会員による月刊誌「雑記帳（点訳）」を毎月発行。
- 月刊誌「雑記帳（点訳）」は、新聞記事・医療に関する記事・お勧めの本の紹介・ことわざ・なぞなぞ・健康に関する記事などとりまぜたものや、視覚障がい者の声や作られた短歌・川柳を掲載するなどして、一方的な情報提供にならないように心掛ける。
- 月2回の活動日には、午前中に点訳作業を行い、午後からは視覚障がい者の方も交えて交流（昼食を一緒にとったり、月刊誌への原稿依頼等）。パソコンの操作を教えたり、中途失明の点字が読めない方に、視覚障がいの方が点字本を読んであげたり、視覚障がい者の方の手製のお菓子を囲んで楽しくおしゃべりしたりしている。家に閉じこもりがちだったけれど、この会に参加して、前向きになられた方もおられる。
- ②視覚障がい者の方が希望する本の点訳をし、市の公共図書館に収めている。
- ③地域コミュニティの拠点である「龍遊館」で、サロン「かふえ・ど・あえる」を毎月1回開催。障がい者の集まる場がほしいとの願いを叶えるため、障がいを越えた交流の場として立ち上げ、サポートしている。
- 身体的な障がいをもつ車いすの方たちとの交流会（茶話会）をもちながら、視覚障がい者の方にパソコン指導や情報交換を行ってきた。交流が進むにつれ、車いすの方も点訳に興味をもたれたり、車いすで誘導するサポートをされたりと、交流に広がりを見せている。
- 茶話会以外にこれまで、イチゴ狩り、車いすダンスの発表、コンサート等を開催。コンサートは、地域の方々にも声をかけて一緒に歌って交流し、多くの方で賑わい楽しんだ。
- ④点字体験学習に出向く。
- 点字体験学習は、最近では高泊小学校に出向き、4年生に体験してもらう。点字の仕組みの説明後、点字盤を使って実際に点字用紙に文字を一つ一つ丁寧に打ち込む。学習の最後にはしおりを渡し、それに思い思いの言葉を点字で打ち込み、世界でひとつだけのしおりができあがった。
- 山陽小野田市児童館（7館）を、3、4館ずつに分けて隔年ごとに点字指導。
- 小野田高校へアイマスク体験に出向く。

これからめざしたいこと

点訳して情報提供するだけでなく、障がい者同士が支えあい、話し合える場の提供を通じ、これからも障がい者同士の交流の広がり、障がいを越えた交流、障がい者理解の輪が地域に広がる活動につながられたらと思って活動していく。



定例会々勉強中



「かふえ・ど・あえる」のコンサート
中央福祉センターにて